

災害支援・教育復興にむけて

つなぐ



日教組災害対策本部

〒101-0003

東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

HP:<http://www.jtu-net.or.jp/>

－ 連合第 20 次被災地支援ボランティア活動日記 －

### <8月22日(月)>

生憎の雨模様で気分は今いちです。でも、「いったい何が待っているのだろうか？」とドキドキしてバスに乗り込みました。大船渡のボランティアセンターまではかなり距離があり、眠ってしまいました。

突然、バスの運転手さんが「ここら辺も水に浸かったんだあ。」とアナウンスされ、みんなの眠気も吹っ飛びました。陸前高田市の海岸に近づくにつれ、周りの景色に呆然としました。テレビや新聞で見知っていたはずなのですが…。いつしか、涙が溢れていました。

作業は、大船渡市末崎地区での側溝の泥出しでした。日教組チームが割り当てられた所は線路の高架下の側溝で、枕木の下に砂利が津波で流されて大量に詰まっていた。カチンカチンの状態で作業はかなり難航しました。でも、作業が大変だっただけに、きれいに取り除いたときは「私たちの活動も復興のためになっているんだなあ」と感じました。



### <8月23日(火)>



昨日に引き続き側溝の泥出しでした。「泥出し」と言っても、砂利ばかりの所、水が溜まっている下に砂がある所、水が引いた後のへドロ状態の所、ガラスがいっぱい流れ込んで溜まっている所、などいろいろな場所があります。

突然、そばのよどんだ川から水が溢れ出し、見る見るうちに道路が水に浸かっていきました。地元の方に聞くと、海から 20m ほどのそこら辺一体が地盤沈下したため、満潮になると海水が流れ込んできて道路が浸かってしまうのだそうです。もちろん、震災前はそんな

なことはなかったそうです。地盤沈下したこの土地をどうやって復旧するんだろうと話しましたが、土を盛って高さを上げるしかないだろうという結論になりました。

大船渡は、かなり瓦礫は撤去されましたが、まだまだやらなければならないことが多すぎて、一体どれだけの時間がかかるのだろうと思いました。

### <8月24日(水)>

今日も、側溝の泥出しを 30 数人で行いました。もうすぐ終了時刻というところで、統括班長さんから「側溝の上に溜まっている瓦礫や土砂を取り除こう」と指示がありました。かなりの量だったので、「こりゃあ、相当時間がかかるぞ」と思いました。しかし、誰が指示を出すわけでもないのに、固まった瓦礫・土砂を崩す人、スコップで一輪車に乗せる人、一輪車を運ぶ人、土嚢袋に詰める人と、みんなが周りを見ながら自分のできることを行い、20分足らずで作業を終えることができました。日教組・J P 労組・基幹労連といった産別を超え、みんなが「側溝野郎 A チーム」としての強い団結力を感じた一日でした。

## <8月25日(木)>

日教組チームから毎日数名ずつ、陸前高田のボランティアセンターへお手伝いに出ています。今日は私たちの番でした。バスの誘導をしましたが、ボランティアセンターの駐車場が狭く、第2駐車場もいっぱいになるほどで大変でした。休憩を取る暇もありませんでした。

ボランティアセンターのスタッフを悩ませることが幾つもあることが分かりました。例えば、ボランティアツアーの添乗員です。「自分たちの行程どおりに行かないのは困る。バスを早く出させる。」などいろいろな文句を言うてくるのです。崇高な気持ちでボランティアに参加している方がほとんどなのに…。また、中にはボランティアと言いながら、金品目当てで来ている人やボランティアセンターの道具を持ち帰ってしまう人がいることも知りました。腹が立つより、悲しくなりました。

嬉しいこともありました。避難所の方々が「タッパーがあれば…」と言っておられたのを聞かれた東京教組世田谷教組の有志の皆さんが、タッパーを集められ、ボランティアセンターに送ってくださったのです。僭越でしたが、連帯する仲間を代表してボランティアセンターの萩原 史さんに贈呈しました。(東京教組の伴はるみさんの呼びかけで集められたタッパー第2弾を9月6日にボランティアセンターに贈呈したそうです。)



## <8月26日(金)>



最終日の今日は、日教組1班を含む大船渡チームの半分は、大船渡小学校のプールサイドの掃除、私たち日教組2班を含む残りは三陸町の浦浜川に流れ込んでいる瓦やコンクリート片、ガラス、金属などの撤去作業を行いました。

漁協の方の話では、浦浜川は鮭が上ってくる川だったそうです。「早く復旧させて、また鮭が上ってくる川にしていな。あ。」との言葉から、地域を愛しておられる想いがひしひしと伝わってきました。

本当にアッという間の5日間でした。悲しみを乗り越え、頑張っておられる被災地の皆さんの姿に、こちらの方が生きる力をいただいたように思います。

**何年後になるか分かりませんが、復興した姿を見に必ずまた戻ってきます！**心の中でそう叫びながら帰路につきました。

